

意向

妊婦さんのために祈りましょう。教皇は妊婦さんがこの時期に勇気と信頼を持ち続けるようにと、妊婦さんに対して特別な思いを抱きました。妊婦さんはお母さんになります。心配で不安です。「どんな世界で私の子は生きるのかしら？」という問いがあります。祈りましょう。主が彼女たちが信頼を持って子育てをする勇気を与えて下さりますように。確かに違う世界になるでしょうが、それはいつも主が愛してくださる世界なのです。

お説教の中で、共同体がなく、実際の人とのコンタクトなしに、ただストーリーミングだけで生きている信仰はグノーシス派の信仰の危うさがあることを話しました。《仮想》の信仰に対して気を付けましょう。

説教

弟子たちは漁師でした：イエスは彼らが仕事中の真ただ中で呼びました。アンドレとペトロは網で仕事をしているところでした。彼らはその網を置いて、イエスに従いました。ヨハネとヤコブも同様でした：彼らも父と一緒に働いていた人たちを置いて、イエスに従いました。召命は漁師の仕事の真ただ中で行われました。

今日の福音の個所は、この奇跡の漁ですが、私たちはまたもう一つ他の奇跡の漁が思い浮かびます。ルカが第5章で言っています：同じことがそこで起きました。彼らは何か漁をしましたが、何も釣れないと思っていました。

イエスは言いました。「沖に出なさい。」「しかし私たちは夜通し働いていましたが、何も取れませんでした！」「行きなさい。」「お言葉ですから、とペトロは言います、網を投げてみましょう。」たくさんの魚がとれたので、と福音は言います、彼らはその奇跡に驚きました。

今日、このもう一つの漁の中で、驚きの様子はありませんでした。ある一種の自然さが見られます。そこに進歩が、主との親しみのうちに主を知ることに至った道、が見られます。正しい言葉で言います。主との親密さのうちに、です。

ヨハネがこれを見たら、ペトロに言いました。「主だ。」ペトロは服を着て水に飛び込み主の方へ行きます。初めての時は主の前に跪き、「私から離れて下さい、主よ。私は罪びとなのです。」今回は何も言いません。より自然です。誰も「誰ですか」と問いません。それが主であると彼らは知っていました。主との出会いは自然でした。

弟子たちの主との親密さが増しました。私たちクリスチャンも同様に、人生の道のりで、主との親密さの中で、この歩みと進歩の状態にいます。主は、このように言ってよいのであれば、少し《手の内に》あります。《手の内に》とは、主が私たちと一緒に歩いてくださり、私たちはそれが主であると分かるからです。

ここで、誰も彼に尋ねませんでした。「誰ですか。」：彼らはそれが主であると分か

ったのです。主との日常的な親密さはキリスト者の親密さです。もちろん彼らは魚とパンの朝食を一緒に取りました。もちろん多くのことを自然に話しました。

キリスト者の主とのこの親密さはいつも共同です。そうです。親しいです。個人的です。でも共同体です。共同体なしの親密さ、パンがない親密さ、教会がない、人々がいない、秘跡がない親密さは、危険です。

この親密は、言うならば、グノーシス派的になる可能性があります。神の民から離れた私だけの親密さです。主との使徒達の親密さはいつも共同体でした。いつも食卓を囲んでいました。共同体の印です。それはいつも秘跡とパンと一緒にでした。

私がこのことを言うのは、ある人が私に、今私たちが置かれている状況で、パンデミックのためにコミュニケーション手段として、メディアを通じて宗教的なコミュニケーションをしていることについてのリスクを考えるように示唆しました。このミサにしても私たちは皆共同体なのに、一緒ではありません。霊的に一緒です。いる人々は少数です。でも多くの人々がいます。私たちは一緒です。でも一緒ではありません。

秘跡もあります。今日は（目の前にいる）あなた方はご聖体をいただけます。でも私たちにつながっている人々は霊的拝領だけです。そしてこれは教会ではありません。主がお許しになっている、難しい状況にある教会です。しかし教会のあるべき姿はいつも民と一緒に秘跡と一緒にです。いつもです。

復活祭の前に私が空のサンピエトロ寺院で復活祭を祝うというニュースを聞いたある司教が私に手紙を書いてよこしました。とても良い司教です。私を叱りました。

「だけどどうしてそんなことができるのですか、サンピエトロ寺院はとても大きいのです。人々が見えるように少なくとも 30 人はおくべきじゃないですか。リスクはないでしょう。」

私は自問しました。「いったいどんな頭で考えて私にこんなことを言うのだ？」私はその場でわかりませんでした。とても良い司教で、人々に近い司教だったので、私に何かを言いたかったのでしょう。また会った時に聞いてみようと思いました。そして私は分かったのです。彼は私に言いました。「気を付けてください。教会をウイルス化してはいけませんよ。秘跡をウイルス化してはいけませんよ。神の民をウイルス化してはいけませんよ。」

神の民の中で、日常生活での主との親密さ、秘跡における主との親密さ。弟子たちは主との親密さにおける成熟への道を作りました。このようにするのを学びましょう。

最初の瞬間より、彼らはこの親密さは自分たちが考えていたのと違うと分かりました。そして彼らはそこにたどり着きました。彼らはそれが主であると分かりました。彼らはすべてを分け与えました。共同体、秘跡、主、平和、宴。

主が私たちにこの主との親密さを教えて下さりますように。主との親密さ、しかし

教会の中で、秘跡と共に、神の忠実な民と共に。